

の個性や人格を育てあげるとともに、市民生活に入つた場合の、深い教養とつながっているものであります。

絵画を見る事によつて、私達の周囲にある形や、線や、色彩の美しさを自覚するに至ると同じように、音楽を楽しむことから、自然生活の上に溢れている旋律や、格調の正しいリズムや調和を感知することが出来ます。

然も音楽を楽しむ心は、幼児の立感教育によつて、容易に培うことが出来ます。

音感教育は、少数の選ばれた素質をもつたものには、天才教育の一端になるかも知れませんが、殆ど大部分のものに対しては、市民生活における教養の根を植へつけることとなります。

リズム教育は決して学芸会用のショウを準備することではなくて、幼児の情操と、筋骨を正しく発達させる第一階梯であります。

すべてのしつけも、決して功利的な形式的なものではなく性格の中に社会性を植へつけて、そのまま大人の生活の中に伸ばされることのできる事が必要であります。

個性が強いといへば偏破なものに思ひ、社会性があるといへば、上滑りのことを考へるのは誤りで、偏つた特権意識ではなく、集団的な訓育によつて、絶えず向上する社会性を養うと共に、個人特有の、伸すべき長所は公正な判断を基礎と

して、できるだけ助長するということが、幼児保育の変らぬ原則でありまして、愛情にしても高度な技術にしても、すべてその原則に貫かれたものでなくてはならないと考へている次第であります。

(大和郷幼稚園)

入園時を前にして



高 森

豊

小さい胸をふくらまし、生れて初めての集団の生活にはいる子供達、限らない愛情の中、いとしい見へのお母様の嬉しい興奮、入園は実に可愛さにみち生氣に溢れ、希望に輝き、全く蘇る様な思ふする。年々変る社会情勢、入園の激増、園内職員構成に、最も能率的に、合理的に教育のスタートを切る入園、去る年を顧み本年を思ふと希望と緊張がみなぎる。

三月初旬入園募集、応募者への願書の配布、そして提出されたものを市立幼稚園共通の選考法をとる。只収容力と応募者のバランスがとれず、狭い門の變ある事は幼児教育者としての責任を思ふと共に、幼児教育伸展のため施設拡充に努力し、地域社会一般にひろく幼児教育の必要の切実な事を啓蒙

せねばならぬ。

入園前に予め子供及母親との面接をする。

先ず身体検査をして「病を園内に入れぬ」という事に努力する。小児の伝染病はもとよりトラホームの様なものは特に留意し、他に集団生活の出来ぬ様な身体障碍者はないかと、園医の診断を受ける。そして一時的な病気は之を入園迄の中に治療して全快の証明ある者だけ入園出来る様にする。

教師は子供に親しく接し、どんな気持の子供であるか、社会性はどうか、能力はどうか等その概観を掴むことに努力する。特に教師の言葉、態度等、親密感にあふれ、子供が安心した気持になつて欲しいと希う。

母と子供への面接は、親しみと共に教育への関心度等が察知され、今後にプラスする面が多い事を喜んでいる。殊に母子二人には、そこに切られぬつながりが見られ、幼児指導の鍵が発見される事がある。面接語り合い等によつて入園前に親しみを増し、入園直後の指導のより所を発見し、力強いスタートを切れるのは嬉しい事である。

入園許可の通知をすると共に母の会を開催する。当日は先ず幼稚園の教育方針並びに幼児教育の重大性と特に母の協力なくして大切な教育は不可能である事を強調し、母の強い協力を切望する。

仍ち幼稚園は子供を健康に、そして安全で災害から守り、

その大切な成長発達を助長する。気持が豊で常に朗かな子供であり、特に集団生活として、人に好かれる子供、物を共有する子供、自分の事は自分でやる子供、人に迷惑をかけぬ子供等、社会性の培につとめる。よい習慣をつくる子供、何でもよく工夫してする子供、こんな考のもとに成長発達の状態に即し常に一人々々の子供の観察をし、そのよい芽をのばし終始変らぬ目的のもとに繰り返し身につけさせる。

入園当初は異常な緊張をする事がある。何と言つても大きい建物・多人数の子供・教師・総ての幼児をとりまく環境が刺戟し興奮させる。この時母の殊更変つた要求は、余りにも子供に重みをかけることになる。幼い子供である。安心して楽しい幼稚園として行く気持をかもして欲しい。安らかな気持ちで喜び勇んで来る様にありたい。家で朝の一時、一寸した事でもこれを見とめて朗らかな気分が満たすのは、成長を願う母の眞の愛情である。認めてやろう、成長感をもたせよう。そしてのび／＼と豊かな気持に浸らせたい。

又集団生活の幼稚園は、特に公衆衛生については充分の話し合をとげる。「これで他人へ迷惑をかけないか」と考えて処理し合うこと。小児伝染病に犯された時、其他伝染性の病気等の場合必ず家で静養させること。もし登園してこれを発見した時は直に休園させる事等、厳しく約束する。手洗、口すゝぎ、歯みがき、排泄、睡眠等、衛生習慣も充分身につけさ

せたい。幼稚園との連絡は最も緊密を要するもので事の大小によらず連絡し、常に相通じて指導にあたりたい。お互いに大切な子供を育て行く使命の重く、又新しい事の希望を語り合う。この日は保育用品の展示をして、その使用の目的方法保管法等につき紹介して意見を交換する。家庭調査書も記入法につき相談し、教育指導にプラスする様に記入を依頼して入園前に提出させる。そして最後に各組別を示して各組の担任職員の紹介をする。

提出された家庭調査書と面接時記録主観等、お互いに話合つて一人々々の様子を親しく研究する。そして入園直後にそれらの指導法を考える。幼稚園環境の設営も充分に熟慮実行する。室内装飾・昇降口・下駄箱・傘棚等明るく落着いて童心にあふれた美しさ、子供が柔かで美しい雰囲気気持よくつゞまれる事こそ大切な事である。個人別に知らせる必要がある傘棚、下駄箱等、見分け易い絵と共に文字も一応書いて置くがよいと思う。

いよ／＼楽しい入園の日が来ると、母に、父に、祖母に伴われてその日おそしとやってくる。名札を胸に園庭に遊ぶ。清く掃き浄められた園庭に、可愛い童謡の声がきこえ、やがて軽快なメロデーが流れる。ブランコも、揺動橋も、雲梯もジャングルジムも、引車、低鉄棒、木馬、そして砂場、そして赤い目の兎、楽しい小鳥の囀り、鶏舎の鶏まで、このよい

日待っている。運動場も急に色めきわたり、来る日の躍動のひそみを思わせる。定められた各組の昇降口から式場に集める。そして子供達に用意された椅子に着席させる。喜んで腰かける子供、母と一っしょでなければいやだと云い張る子供、ぎこちなさそうにこしかけている子供、中には後向、横向、或は立ってこしかけぬ等、横紙破りも、二、三は見受けられる。自由にとにかく思うまゝに一応着席する。

可愛いムリズミカルな音楽が奏せられる。

「あら、お早うございます。坊ちゃん、嬢ちゃん、よくいらっしゃいました。私は幼稚園の人形芝居に出る、花子ちゃんです。僕は太郎君です。今日から一っしょに仲よしになりましょう。あら政雄さん、ニコ／＼で元気ですねえ。あーら敏子ちゃん、可愛いすね。これから仲よく遊びましょうねえ」

二人の人形は喜んで退場する。

軽快なピアノに、幼稚園のリズム楽器一同出場して御挨拶をする。それ／＼音を出しては名をなめる。そして一同簡単なりズム合奏をする。

「皆なお友達さんばかり。明日から一人で元気にこれる方！ まあ、そんなに沢山いらっしやるなら先生達も早くお待ちしましょう。ハイ〇〇組の〇〇先生」と紹介する。

「あゝ、たれかのお声がきこえました。じゃおすきな歌を

うたいましよう」

こうして入園式はする／＼と手短かに終りを告げる。固苦しい顔のお話を了解して頂いて、心からの祝福を頂きたいと希望する。

幼稚園は子供を本体として、なごやかな雰囲気にはたせ楽しい一ときを終りたい。おみやげを手にして、伴われて帰り行く子供の、又の日の登園時を思い合せて、明日も又楽しく過してくれよと心から祈る。

昨日は幾分家人の束縛も思われたが、今日は自由に、園庭は千種万様の花にうずまる。

その一人々々を敏感に見とる事は、幼稚園教師の特技であり、責任である。「お早うございます」「あら元気で来ましたね」「敏子さんお早う」等、一人々々心から歓迎診断をする。顔色、まなざし、心の奥までみとりたいと努力する。

「お早うございます」と声も朗かに、辻台、ブランコ、揺動橋引車、砂場へと取り組む子供達、「先生、先生」とはしゃぐ子供、かとみると、しょんぼり立っている姿、「いらっしやい」「いや」と首を振る。こんな子供は見忘れぬ様、誘っては教師に、友に、遊具に親しむ機会をねらう。

教師にまつわりつく者よりじつとして居る子供、はしゃぐ子供より黙っている子供。

寂し気なまなざし、怖えた様になっている子供、それ／＼適

応の処置をとる。泣く子供の気持の転換には、よく家庭調書から話材をとり、親しく語る内に親愛感をまし、心の安定をとりもどす。機敏に賢く各一人々々の環境的障碍を取りのぞき、心の安定を計らねばならぬ。泣き出す子供にはその前の寸刻がある筈である。その時を見落さず導くことが大切である。「揺って、揺って」とブランコから呼ぶ。幾度か背を押してやる。いつの間にか体の屈伸のこつを感じし一人で揺る事を喜ぶ。揺動橋のゆり方、体の重心の置き方、体験して初て一人々々発見するものである。砂場の山トンネル、辻台の辻方、ジャングルジムの登り方、又同様である。運動遊具はそれ／＼多少の危険は伴うが、教師の指導があれば子供はそれ／＼体験して、運動具使用の方法を知る。教師に、遊具に友に親しみを覚えて、初て心の落着を取りもどし、幼稚園に入園したという事実が実現する。

「お行儀よくならびましよう」の「この方のあとがあなたよ」等、今日初て相見る子供達の多い中、子供こそ迷惑千万である。

「かばんやお帽子はこゝにかけましょう。じゃまになるから」とかけさせる。や、と今日初め肩にかけ嬉しくてたまらぬであるものを、中には不安がって度々見に行く者もあり、いつの間にか身につけているものもある。かけねばならぬ必要も感じない者に、整理させるところに不安がある。子

供が遊ぶ時は必ず邪魔だと思ふ時がある。その時こそその整理を必要とする時であろう。並ばねば不便と感ずる。その機会を捉え、その方法を考える。幾度か幾度か繰り返しては、混とんとした中から、整然と並ぶ様になる。幾度か試み教師のよき援助で、自ら創案して並び方が案出される。急いではならぬ、子供はどこまでも具体的に自分で体験せねば納得出来ぬものである。どんな小さな事でも、体で感じ、手でさわり、初めてうなづけるのが子供である。誠に子供の教育は時間がかゝり、面倒である幼児期こそ、一生の基盤を培う時である。

幼い子供の生命の激しさは、人生の足場をもとめ、根を張ろうと、真剣な闘をしている瞬間である。赤は赤に、白は白に、各人各様の様相の中に、創意創案の芽はのびて行く。

急いで大切な生命を失つてはならぬ。形に捉われて魂をぬかしてはならぬ。子供は言葉で学ぶのでなく、雰囲気や学ぶ者である。

私達は深い研鑽と、鋭い感覚をもち、周到な準備のもとにあたらねばならぬ。

素晴らしい成長力をもつ子供との取組は、果てしも無く続く。私達は人生としての生氣と敏感さを失つてはならぬ。

(熊本市五福幼稚園長)

新入園児を迎えるに當って



遠藤孝子

○準備すること

近頃通勤の道すがら幼い子どもに呼びかけられたり、追いつがって足をとめられることがある。この子ども達には就学前期一ケ年の幼稚園教育をうける適令期に達したよろこびの表情がつゝみきれないものゝようである。又ある子どもが柱にもたれて泣いているので、その子の母が、「どうしたの」ときくと、「うち、早よ、幼稚園へ行きたいのになかなかきになれへんわ」といつて悲しがっていたというのである。大方五才にならないと幼稚園には入れてもらえないとささとされているにちがいない。そこで、新入児を迎えるについては、先ず、

(一) 幼稚園を紹介する。

という仕事と考えられる。それには第一に幼稚園は一年で足りるというのでなく、せめて一年でもということに立ち至っている事情を説明しなければならぬ。又幼稚園志願者は認識をもっている人達ばかりとは限らないし、まだまだ近所